

SS/Tool Ver4.0

バージョンアップ°

アプリケーション構造解析ツール

ソース解析の機能を充実し
表現力の高い画面・帳票環境を実現

株式会社アイエステクノポート

► <http://www.istechnoport.co.jp/>

「S/Tool」はIBM iで開発されたアプリケーションの構成情報を分析・出力するツールである。

運用歴の長いIBMユーザーでは、長期にわたるアプリケーションの利用および改変で、ドキュメントが保存されていないケースが少なくない。そこでアプリケーションの構造をリアルタイムに照会し、プログラム関連処理やソース・メンバー処理、データ処理などについて分析。その結果をドキュメントへ出力して管理するのがSS/Toolである。

最新のアプリケーション構造がリアルタイムに取得できるため、仕様変更による影響範囲が正確に把握でき、開発生産性の向上に役立つ。アイエステクノポートが提供する一

連のソリューションと同様、処理は全てIBM i上で完結する。別途PCサーバーを導入して、ソースを転送する必要がないのも特徴だ。

最新バージョンではソース解析の機能をさらに充実させるとともに、ドキュメント化ツールとしての性能を大幅に強化している。

例えば画面・帳票レイアウトの出力が可能になったほか、指定したCLソースを解析してジョブフローを出力できる(図表)。

また、ファイル項目ごとにその項目を使用するプログラムを解析する「ファイル・フィールドプログラム関連表」や、プログラム内で使用するフィールドを解析して、セット内容とともにデータベースごとの項目一覧を出力する「プログラム使用項目一覧表」など

もサポートされた。

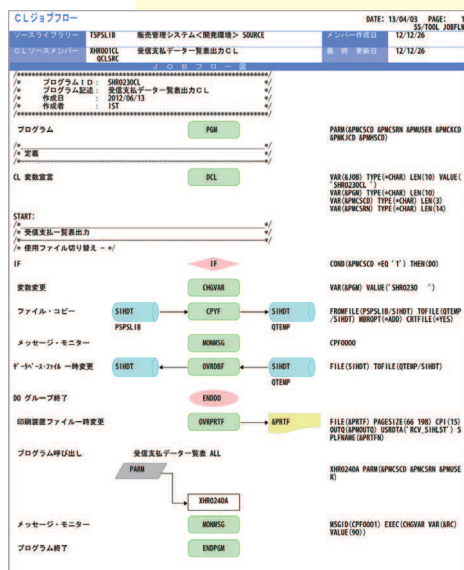
さらにWindows環境で稼働する場合と比較しても遜色のない、表現力の高い画面・帳票環境をオプションで提供している。

例えば、「UT/400-iPDC」のエンジンを利用してSS/Toolからの出力帳票をPDF化し、美しく見やすいドキュメントを作成することが可能になった。

またコンソール画面をGUI化し、5250とは異なる画面操作や、PDF変換後の自動表示に対応している（画面）。

従来から定評のある解析能力に、画面・帳票の高い表現力が加わったことで、IBM i アプリケーションの開発生産性をさらに高めることができそうだ。

図表 CLジョブフロー



画面 GUI化されたコンソール画面

